

主題名

本当の親切とは

教材名

心に通じた「どうぞ」のひとつこと（東京書籍）

内容項目

B-(7)『親切, 思いやり』

本単元で育成する資質・能力

思考・表現 協力・協働

- 1 対象・日時 第6学年1組 男子7名 女子5名 計12名
令和8年6月19日(金) 第6校時(14:05~14:50)

2 主題設定の理由

- 本主題は、「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」小学校第5学年及び第6学年の内容項目B-(7)「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること。」を基に設定したものである。

この段階においては、自他を客観的にとらえることができるようになってくるため、相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。また、家の周囲や学校といった狭い範囲だけでなく、地域社会における公共の場所など活動範囲がより一層広がり、より多様な人々と接する機会が多くなっていく。人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接する全ての人に広げていくことが重要である。

親切とは本来、相手を選んだり、外的な報酬のためにしたりするものではなく、だれであろうと、目の前にいる相手のことを考え、相手のために行動することである。親切にしたいという意欲や周りを気遣う温かい心は、「行為」として示したときに親切へと変わることに気付かせたい。相手の立場や気持ちを真剣に考え、より深い思いやりの心をもって親切な行動ができるような児童を育て、温かい心や温かい行為、または勇気ある行為が広がる学級づくりを目指していきたいと考える。

- 本学級の児童は、友達や身近な人には自分から声をかけたり、困っている様子に気付いて行動したりすることができる。しかし、あまり親しくない人や初めて接する人に対しては、親切にしたいという気持ちはあっても、恥ずかしさや周りを気にするあまり行動や言葉に表すことができない場面が見られる。事前に行ったアンケートでは、次のような結果が見られた。

☆ 困っている人を見かけた時、助けることができますか。			
ア よくできる	4人	イ だいたいできる	6人
ウ あまりできない	1人	エ できない	1人
☆ 友達ではなく、あまり知らない人でも親切にすることができますか。			
ア よくできる	4人	イ だいたいできる	3人
ウ あまりできない	2人	エ できない	3人
☆ 親切にする時、「どうぞ」「大丈夫ですか」など声をかけることができますか。			
ア よくできる	2人	イ だいたいできる	5人
ウ あまりできない	2人	エ できない	3人

上記の結果から、困っている人を見かけた時には、多くの児童が何かしらの行動で助けることができていることが分かる。しかし、その対象が知らない人になることで思いはあるものの、行動に移せなかったり、行動しても言葉をかけることができなかったりしている現状が見て取れる。教室でも声をかけずに物を渡したり、落ちているものを無言で拾ってあげたりする等、相手に思いが伝わりにくい親切になっている様子も見受けられる。以上のことから、親切にしたいという内なる思いを、行動や言葉として相手に届けることの大切さについては、まだ十分に意識できていない児童も多いと考えられる。こうした実態から、本教材を通して、思いやりの心を行動や言葉として表す

この意味と価値を深く考えさせ、誰に対しても進んで親切にしようとする態度を育てていきたい。

- 本教材は、列車に乗っている「ぼく」の前に、荷物を持った腰の曲がったおじいさんが立ったとき、席を譲ろうと立ったものの「どうぞ」の一言が言えず、いつの間にか他の人が席に座ってしまう。しかし、後悔する「ぼく」におじいさんが声をかけ、「ぼく」の心が温かくなり、自分の行動についても考えていくという話である。

指導に当たっては、事前アンケートを活用して、「親切にしたい。」「困っている人を助けたい。」という思いをもちながらも行動にできない心の弱さや、行動だけの親切で終わっている児童の実態を取り上げることで、「本当の親切とは、どのようなことなのか。」という本時のめあてにつないでいく。

展開では、おじいさんに席を譲りたいから「どうぞ」と言って立ちたいと思いつつも言えない「ぼく」の行動の是非やその後の気持ちを考えることを通して、「譲る」ということは親切な行為であるが、十分ではないということ、「ぼく」のおじいさんへの親切な気持ちは、「ぼく」の「どうぞ」と言えない弱さのために届かなかったことを気付かせたい。

中心発問では、おじいさんがうれしい気持ちを抱いたまま立ち去ったり、会釈したりする訳もなく、わざわざ「ぼく」のところに来て手を握り（行動）、気持ち（言葉）を伝えた行為の真意を問うことで、親切とは「落ち込んでいるぼく」＝「困っている人」のために行うものであり、また、親切にしたいという思いは、その思いを行動や言葉に表すことで初めて、伝えたい相手に届くということに気付かせたい。

終末では、本時の授業や自分の生活をしっかりと見つめ振り返ることで、相手のために思い、思いを形に表すことで、親切はより伝わることにも気付かせ、これからの生活につなげていきたい。

3 他の教育活動との関連

ハート&アクション プロジェクト

子どもの姿

before

「親切にしたい」という内なる思いを、行動や言葉として相手に届けることのできない児童の姿が見られる。

事前活動

【学校行事】 広南学園運動会、体カテスト、縦割り掃除、プール掃除
ソーラン節や体カテスト、掃除などで下級生に教えたり、手助けしたり、ほめたりすることで、下級生に寄り添いながら、親切な行動をする大切さに気付く。

【特別活動】 1年生の給食のお手伝い

配膳の仕方を分かりやすく教える、下級生の背や歩幅に合わせて食缶を運ぶ等、1年生のことを思い、1年生のためになる行動とは何か考えながら行おうとする。

【道徳科】教材名：「心に通じた『どうぞ』のひとつ」（本時）

「どうぞ」と声をかけられなかった主人公の心情やおじいさんの行動の意味を考えることを通して、親切にしたいという思いは行動や言葉に表すことで初めて相手に伝わることや、相手のことを真剣に考えて行動することが真の親切であることに気づき、誰に対しても進んで親切にしようとする思いをもち、その思いを行動や言葉にして伝えようとする態度を育てる。

内容項目：C－（7） 親切、思いやり

事後活動

【特別活動】 クラブ・委員会活動

相手の立場を考えた行動や言葉かけを積み重ねることで、思いやりの心を行動や言葉に表すことができる。

【特別活動】 親切さんグランプリ

友達の親切な行動や言葉を見つけ合い、認め合う活動を通して、親切は自分や相手だけでなく周りも気持ちよくする行為だということに気づき、さらなる行動意識を高めることができる。

子どもの姿

after

誰に対しても、親切にしたいという「思い」をもち、その「思い」をしっかりと形（行動や言葉）に表している。

4 本時の学習

(1) 本時のねらい

「どうぞ」と声をかけられなかった主人公の心情やおじいさんの行動の意味を考えることを通して、親切にしたいという思いは行動や言葉に表すことで初めて相手に伝わることや、相手のことを真剣に考えて行動することが真の親切であることに気づき、誰に対しても進んで親切にしようとする思いをもち、その思いを行動や言葉にして伝えようとする態度を育てる。

(2) 学習の流れ

	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点(・) (☆評価の観点)
導入 課題意識をもつ	1 アンケート結果を見て「親切」について課題意識をもつ。	○親切にしたかったけれど、できなかった経験はありますか。また、その時、どのようなことを感じましたか。 ○親切な行動について、もっと考えてみよう。 「本当の親切」とは何だろうか。	・アンケート結果から、親切にしたい気持ちはあるが、なかなかできない思いに共感をさせる。
展開 学びを深める	2 教材「心に通じた『どうぞ』のひとこと」を読んで話し合う。 3 おじいさんを前にした時の葛藤する「ぼく」の気持ちを考える。 4 ぼくの行動に対して自分事として考える。 全体 (サークル対話)	○みなさんはこのお話を読んでどんなことを感じましたか。 ・おじいさんのために行動できるぼくはすごいと思う。 ・自分だったら行動したいけどできないかもしれない。 ・おじいさんが気付いてくれたからよかった。 ○荷物を持ったおじいさんを前にぼくはどのように思ったのだろうか。 ・困っているから席を譲らないと。 ・自分よりも大変そうだ。 ・誰かが声をかけるだろう。 ・どうしようか。断られたら恥ずかしい。 ・声をかけて怒られたらどうしよう。 ○「ぼくはなにげなく次で降りるふりをして何も言わずにその場を離れました。」この行動は親切ですか、親切ではないですか。あなたはどのように考えますか？ 親切 ・おじいさんのために立ったのだから優しい行動。 ・おじいさんのために譲ったのだから親切だと思う。 ・行動していてすごいから。	・場面に分けて登場人物や場面状況を確認することで、教材により浸れるようにする。 ・ぼくの「親切にしたい気持ち」と「言えない葛藤」の両方を出させ、共感させる。 ・どちらの考えに近いのかを選択させることで、自分ごととして考えることができるようにする。 ・「立って譲る」という親切な行為にしっかり共感させながら、「どうぞ。」と言えない主人公の弱さに気付かせ、なぜ言えなかったのか、できなかったぼくの原因を考えさせる。

	<p>5 おじいさんの行動から親切について再考する。</p> <p>6 本時のまとめをする。</p>	<p>親切ではない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黙って立っただけでは何のためなのか分からないから。 ・優しいけど、「どうぞ。」は言えなかったから。 ・立っただけはすごいけど、おじいさんには届かないかもしれないから。 <p>◎「ありがとう」と伝えたおじいさんの行動から「ぼく」はどんなことを考えたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次はぼくも「どうぞ。」と言葉をかけてから譲れる人になりたいな。 ・知らない人でも、勇気を出して心を形にすることって大事なんだな。 ・行動に移すだけでなく、言葉もかけるとより相手に伝わるんだな。 ・自分がどうかではなく、おじいさんのように、相手のことを考えた親切な行動ができる人になりたいな。 <p>○「本当の親切」とは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを本気で考えて動くことが本当の親切。 ・相手に親切を届けるためには、行動だけでなく言葉をつけることで本当の親切になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんへの親切が届かなかったのは、周りの人のせいだけではなく、自分のせい（「どうぞ。」と言えない）でもあることに気付かせる。 ・おじいさんと「ぼく」との行動の違いについて考えさせる発問を行うことで、相手のために行動することのよさに気付かせる。 <p>☆ 親切とは、相手の立場に立って、相手が嬉しいことをするという。また、思うだけではなく、行動すること、言葉にすることで相手に伝わるということに気付いている。（ノート・発言）</p>
	<p>7 今回の学習を振り返る。</p>	<p>○ 今回の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分は親切をしたいと思ってもなかなか声が出なかったけれど、相手がどうしてほしいかをしっかり考え行動+言葉で親切をしていきたい。 	<p>☆ これまでの自分を振り返り、困っている人がいたら進んで親切にしていこうとする意欲をもっている。（ノート）</p>

5 板書計画

